

Weekly Market Report

NAPHTHA C&F JAPAN

Price Data

C&F JAPAN(ドル/MT)

5月後半着	1056.50	(△55.00)
6月前半着	1052.00	(△53.50)
6月後半着	1048.50	(△52.00)
7月前半着	1046.00	(△51.00)
7月後半着	1044.00	(△50.25)

8日午後6時時点の価格、()内は前週最終営業日との比較

OPEN SPEC NAPHTHA スポット取引プレミアム(ドル/MT)

(千葉到着ベース)	COUNT30 日前	COUNT45 日前
5月前半着	+8.75	+4.75
5月後半着	+7.25	+4.25
6月前半着	+5.00	+2.75
6月後半着	+3.25	+1.50

算出時の原油価格(ドル/bbl)

取引所/銘柄	限月	
NYMEX/WTI	MAY	111.70
ICE/BRENT	MAY	124.30

Market Comment

前週のナフサ C&F JAPAN は 1050.25 ドルと大幅続伸、クラックスプレッドは上昇。アジア市場は堅調なファンダメンタルズを背景としたブルなムードと、ナフサ価格が 1000 ドルを超えたことからの高値警戒感とが交錯、クラックスプレッドは一進一退となった。

週初、期近玉を中心に逼迫していたファンダメンタルズが緩み、纏まった売り手も見られたことで、一服感が台頭した。震災により日本のクラッカーが停止および減産した状態にあっただにもかかわらず、他国のクラッカーの稼働が上がったことから旺盛なナフサ需要が見られ、供給が不足した状況にあった。通常ナフサが供給過剰にある欧州市場においても、大量のナフサが米国市場に流出したことで、アジアに仕向けられる裁定玉は大きく減少、アジアの需給を引き締める要因となっていた。しかし、米国市場からの需要も一服し、徐々に欧州市場の逼迫感が緩み始めた。それにより欧州市場における余剰玉がアジアに仕向けられるのは時間の問題との見方が強まり、アジア市場においても利食い売りが先行した。また、原油価格がリーマンショック以来の高値を大幅に更新したことで、ナフサの価格も 1000 ドルを超えてきた。一方で、石化製品市場においては製品需要の伸びが見られず、石化価格は頭打ちとなっている。そのためクラッカーの-margin が大きく悪化し、減産の可能性も示唆され、上値の重い展開となった。週前半は、原油価格の上昇に対しナフサ価格の上昇は鈍く、クラックスプレッドは下落することとなった。

しかし、週後半に入ると、エンドユーザーのスポット調達動きが活発になり、再びアジア市場のファンダメンタルズは逼迫した状態に。エンドユーザーの調達は 5 月後半到着玉に移行し、活発な動きが見られ、成約されたプレミアムのレベルも大きく上昇した。高値で取引されことから、売り方の玉の薄さが鮮明になった。未だ 5 月前半到着玉を調達できていないエンドユーザーも複数存在していることから、極端に供給が需要に追いついていないとの見方が強まった。震災の影響で日本の製油所の稼働が落ち込み、ガソリンを緊急輸入する動きがあったことで、アジアのガソリン市場も上昇し、ガソリンブレンドからのナフサの需要が見られたこともサポート要因となった。週後半は原油に比べナフサの上昇ペースが上回ったことでクラックスプレッドは上昇、前週よりも高いレベルにて終了した。また、原油価格が大幅に上昇したことで、ナフサ価格もリーマンショック以来の高値を更新した。

今週のアジア市場は、引き続き原油価格の上昇の勢いが衰えないことが見込まれ、高値を更新する動きが想定される。一方、アジア市場のファンダメンタルズは逼迫した状態にあるが、高値に対する警戒感も強く、クラックスプレッドは一進一退の動きになるだろう。

Daily Chart

C&F JAPAN(ドル/MT)



Weekly Market Report

NAPHTHA MOF

Price Data

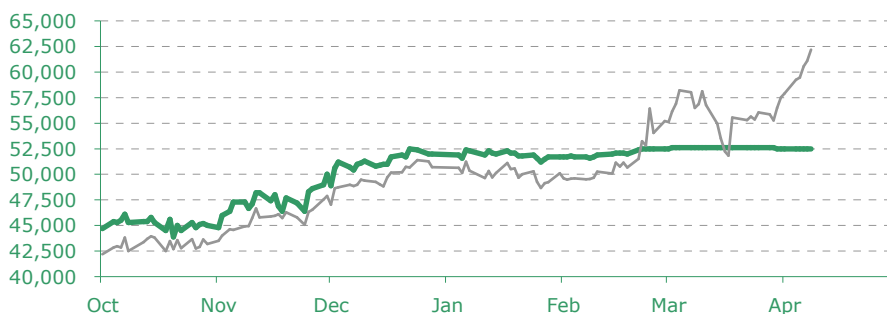
ナフサ MOF / 国産ナフサ価格予想値および評価値

	ナフサ MOF 価格				国産ナフサ価格	
	予想値/評価値			速・速報値 円/KL	予想値/評価値 円 KL	速報値 円/KL
	ドル/MT	ドル/円	円/KL			
10-Oct	700.07	83.42	40,587	40,712		
10-Nov	747.36	81.39	42,273	42,222		
10-Dec	796.85	83.61	46,305	46,634		
10-4Q			43,079	43,101	45,100	45,100
11-Jan	857.45	82.91	49,410	49,202		
11-Feb	882.61	82.33	50,505	50,204		
11-Mar	909.37	82.49	52,133	(±0)		
11-1Q			50,513		52,500	(±0)
11-Apr	983.31	82.45	56,345	(Δ235)		
11-May	1,038.42	85.17	61,468	(Δ3,194)		
11-Jun	1,056.93	85.18	62,571	(Δ4,152)		
11-2Q			60,128		62,100	(Δ2,500)
11-Jul	1,054.86	85.20	62,461	(Δ4,149)		
11-Aug	1,053.07	85.22	62,369	(Δ4,157)		
11-Sep	1,051.57	85.24	62,294	(Δ4,177)		
11-3Q			62,375		64,400	(Δ4,200)
11-Oct	1,050.13	85.26	62,228	(Δ4,192)		
11-Nov	1,048.85	85.29	62,174	(Δ4,211)		
11-Dec	1,047.58	85.32	62,122	(Δ4,225)		
11-4Q			62,175		64,200	(Δ4,200)
12-Jan	1,046.10	85.36	62,064	(Δ4,237)		
12-Feb	1,044.17	85.41	61,982	(Δ4,239)		
12-Mar	1,041.73	85.46	61,872	(Δ4,233)		
12-1Q			61,973		64,000	(Δ4,300)

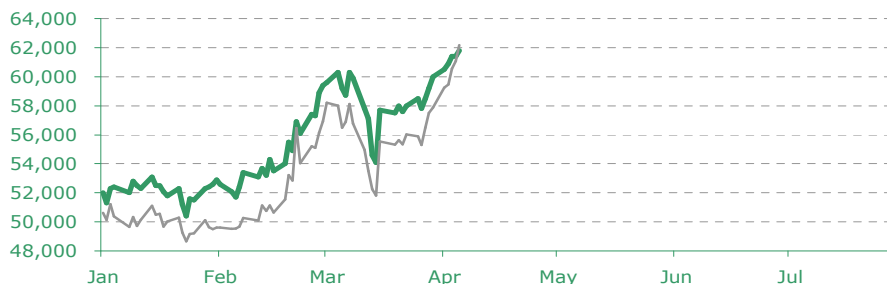
予想値は太字での表記
 MOF(国産)価格の評価値は予想値ではなく8日午後6時時点での理論上の計算値
 ()は前週最終営業日の予想値および評価値との比較
 換算比重は0.695、
 為替レートは実勢為替相場に基づいた通関レートおよび為替先物マーケットから算出

Daily Chart

11-1Q 国産ナフサ評価値/予想値(円/KL)



11-2Q 国産ナフサ評価値/予想値(円/KL)



太線は弊社予想値および評価値の推移(午前10時時点)
 細線はナフサ C&F JAPAN に為替および比重(0.695)を乗じた数値の推移

Weekly Market Report

CRUDE OIL & OIL PRODUCTS

Price Data

Crude Oil(ドル/bbl)

取引所/銘柄	限月		前週末比
NYMEX/WTI	MAY	112.79	(Δ4.85)
	JUN	113.37	(Δ4.87)
ICE/BRENT	MAY	126.65	(Δ7.95)
	JUN	126.12	(Δ7.71)

Oil Products(セント/gal)(ドル/MT)

取引所/銘柄	限月		前週末
NYMEX/RBOB	MAY	326.07	(Δ10.94)
NYMEX/Heating Oil	MAY	331.97	(Δ18.52)
ICE/Gas Oil	APR	1053.00	(Δ52.50)

Market Comment

前週の原油相場は続伸。中東や北アフリカの地政学的リスク、米国の景気回復への期待、対ユーロでのドル安を背景に買いが先行した。WTI 期近 5 月限は 110 ドル台へと上昇し、一時 113.21 ドルと期近ベースとしては 2008 年 9 月以来、約 2 年半ぶりの高値を示現した。ブレント原油も約 2 年半ぶりの高値へと値位置を切り上げており、地理的条件などから WTI とのデファイレンシャルは一時 14 ドル以上にまで拡大する場面も見られた。

引き続きリビア情勢の緊迫化が強材料視されている。東部都市トブルクから石油が輸出されたとの報もあったが、そのトブルクへとパイプラインで繋がっているサルル油田などが、カダフィ政権側の部隊による火災の影響から、原油生産が停止するといった事態が生じている。また、北大西洋条約機構(NATO)による空爆が強化されたことも、同国からの原油輸出停滞を強く懸念させる要因となった。リビア情勢不安が他の中東産油国へと飛び火することへの警戒感が依然燻ぶるなか、連邦議会選や大統領選を控えたナイジェリアにおいても、市場では不透明さが広がったことで、投機筋による買いが集まる格好となった。

地政学的リスクのほか、米国の景気回復への楽観的見方も相場を押し上げた。前々週末の雇用統計が良好な内容となったことに続き、この週も新規失業保険申請件数が市場予想を下回ったことで、米国の雇用情勢が改善へと向かい、強いてはエネルギー需要の増大に繋がるとの見方が広がった。この他、ドルが対ユーロで下落したことも、買い気を促す要因となった。欧州中央銀行(ECB)が利上げに踏み切るとの見方からユーロが買われ、ドルは対ユーロで約 1 年 2 ヶ月ぶりの安値を付けた。原油相場はドル建てで取引されることから割安感が意識され、投機資金流入を加速させる要因に。

これらのブル要因を背景に買いが先行し、原油相場は節目の 110 ドルを上抜くに至った。連日の陽線引けと、市場のセンチメントは強気にあることが窺え、トレンドは上向きにあると判断される。チャート面においても、2 月中旬の安値を基点としたアップトレンドラインにサポートされている。しかし、高値警戒感が強まっている点は念頭に入れておく必要がある。節目の 110 ドル超えが市場のコンセンサスとなっていた感があり、同水準に達したことで、買い一巡後は利食い売りが入る可能性がある。ファンド筋の買い越しも相当増えており、一旦は調整が入っても不思議ではない。また、雇用指標は良好だったが、ISM 非製造業景況指数は前月から低下、市場予想も下回っており、米国の景気回復ペースに関しては予断を許さない状況にある。加えて中国が利上げを実施したこと、ユーロ売りに繋がった ECB のトリシェ総裁発言、米国の原油在庫の増加など、上値抑制要因もある。地政学的要因にサポートされ、基調は上向きであるものの、買われ過ぎ感から一旦は調整が入るだろう。

Daily Chart

NYMEX/WTI 期近日足(ドル/bbl)



Weekly Market Report

PETROCHEMICALS MARKET COMMENT

Aromatics

BTX/Styrene Monomer

前週のアジアのFOB KOREA1100ドル台後半へと値を上げた。他の芳香族は、トルエンは前々週末の戻り歩調を継続し、節目の1100ドル台へと上昇している。一方のパラキシレン(PX)は、ベンゼンやトルエンとは異なり、軟調地合い継続から1500ドル台へと値を崩した。引き続き川下の高純度テレフタル酸(PTA)からの引き合いが低下しており、長期に及んだ上昇基調から一転して下落基調を強めている。電力使用量が増えていることを懸念し中国政府が電力供給を制限していることで、さらに川下のポリエステルの需要が減少していることに加え、震災の影響から日本の需要不振も影響している模様。

アジアのベンゼン市況は、3月下旬に1130ドル台まで下落したが、その後は底打ちから切り返す動きとなっている。川下の主要誘導品であるスチレンモノマー(SM)が急速に値を戻している。中国のEPS需要の低下から北東アジアのSM需給バランスは供給過剰の状態にあったが、引き合い旺盛なインドのSM価格に割高感があることで、インドへの玉の流出が進んでいる。行き場を失いつつあった玉の行き先が見つかったことで、シンガポールのエルバ・イースタン(シェルとBASFの合弁)が、生産能力55万トン/年のSM/POプラントについて不可抗力を宣言したことも、ここにきて買い材料視された格好。SMサイドからの押し上げに加え、川上の原油相場が連日の高値更新となっていることにも牽引されたとみられる。川上および川下で買い材料が見られたことで上昇しているが、本格的に上昇基調へと転換したと判断するのは早計だろう。定期メンテナンス入りする川下誘導品プラントもあり、ベンゼンに対する引き合いが急増することは想定し難い。また、足元のベンゼン需給自体にもタイト感はなく、再び上値が重くなる可能性がある点は注意が必要である。なお、対ナフサとのスプレッドは、150ドルを割り込む水準まで縮小している。ナフサとの相対比較においては割安感があるものの、上げ渋っていることから、ファンダメンタルズはそれほど強くはないことが窺える。

Olefins

Ethylene/Propylene

前週のアジアのエチレンマーケットは小動き。C&F NE ASIA1300ドル台後半で確りとしているが、特段目立った動きは見られていない。震災の影響により日本の輸出が減少していることにサポートされている。ただし、中国の在庫が高水準にあるうえ、東南アジアのクラッカーの稼働が高く、アジア全域としては需給が引き締まっている状況にはない。また、マージン悪化から誘導品需要が不振である。ポリエチレン需要が低迷しているほか、中国のポリエステル需要が減少しており、稼働低下から原料エチレンに対する引き合いが落ちてきている。足元需給に逼迫感は乏しく、一段の上昇には懐疑的である。

前週のアジアのプロピレンマーケットは小幅下落。小安いがFOB KOREA1560ドル台で大きな動きは見られていない。川上の原油相場やナフサ市況は強含みの展開となっているが、川下誘導品に特段目立った動きはなく、決め手材料難から方向性の乏しい動きとなっている。定修要因等に支えられる可能性はあるが、コスト見合いから引き合いが低下する可能性もあり、新たな材料を待ちたいところ。

Polymers

Polyethylene/Polypropylene

前週のアジアのポリエチレンマーケットは小幅まちまち。低密度ポリエチレン(LDPE)はC&F NE ASIA1680ドル水準、直鎖状低密度ポリエチレン(LLDPE)は1375ドルと小幅に値を崩す一方で、高密度ポリエチレン(HDPE)は1370ドルへと値を上げた。原油やナフサ市況は極めて強い動きとなっているが、そこから派生する石油化学製品市場は総じて上値重い商状となっており、PEも同様にセンチメントは弱い。震災に伴うスポット購買は一巡し、潤沢な在庫、需要の伸び悩みなどを理由に軟調な展開となる可能性が高い。

前週のアジアのポリプロピレンマーケットは小安い。HOMOグレードはC&F NE ASIA1640ドル水準で小幅に値を下げた。定修による供給減少見通しから下値を積極的に売り込む向きは少ないものの、日本の輸入需要については織り込んだ感があり、買い気も乏しい状況にある。新規材料が出現するまでは、様子見から方向感を欠いた展開が見込まれる。

Polystyrene/ABS

前週のアジアのポリスチレンマーケットは小幅続落。GPPSはC&F NE ASIA1575ドル。原料SM市況は切り返す動きとなったが、誘導品であるPSへの影響は未だみられていない。タイムラグが生じている公算が大きく、原料高から一旦は下げ止まる可能性が高い。ただし、上振れするだけの材料を欠いている点は、念頭に入れておきたい。

前週のアジアのABSマーケットは小幅続落。2265ドルと1月上旬以来の安値水準へと値を崩している。季節要因から需要が伸び悩むなか、原料高からマージンが圧縮傾向にあり引き合い低下が懸念される。ここにきて原料ブタジエン供給が増えているとの見方もあり、先安期待から買い控えの動きも想定され、目先は下値指向の流れを継続する公算が大きい。

Weekly Market Report

FUNDAMENTALS & WEEKLY TOPICS

「2月のHDPE輸入単価、安値トップ10」

2011年2月のHDPE輸入実績は次のとおり。輸入数量は前月比558トン増の4992トン、輸入価額は6億1270万3000円となった。主な原産地別輸入数量の割合は、タイが71%、米国が8%、ブラジルが7%、韓国が4%、サウジアラビアが3%となっている。価額を数量で割り返した2月の輸入単価(CIF JAPAN)の計算値は、前月比3円安の123円/kg。貿易統計上のHDPE統計値は、汎用品と付加価値品との区別は出来ないが、税関別や国別に分けることで汎用品の輸入単価が概ね予想可能となる。貿易統計値およびそれを基に算出した単価の安値トップ10は、下表のとおり。なお、2月の通関レートは、1ドル=81.76~83.42円、日数による加重平均値は、1ドル=82.33円。

税関	国名	2011年2月			CIF JAPAN	
		数量 (kg)	価額 (1000円)	(円/kg)	単価 (ドル/MT)	
志布志	マレーシア	15,360	843	55	658	671
東京	マレーシア	20,000	1,564	78	937	956
横浜	ブラジル	25,000	2,610	104	1,251	1,277
東京	サウジアラビア	24,750	2,697	109	1,306	1,333
大阪	サウジアラビア	49,500	5,445	110	1,319	1,345
名古屋	サウジアラビア	49,500	5,445	110	1,319	1,345
神戸	ドイツ	1,990	219	110	1,319	1,346
博多	タイ	120,000	13,246	110	1,323	1,350
清水	タイ	48,000	5,303	110	1,324	1,351
那覇	サウジアラビア	24,750	2,747	111	1,330	1,358

(出所:財務省)

「2月の中国HDPE国別輸入数量トップ10」

HDPE

輸入先	2011年2月		CIF CHINA
	数量 (MT)	価額 (ドル)	単価 (ドル/MT)
合計	205,965	279,099,036	1,355
前月比	▼ 126,670	▼ 163,641,741	△ 24
前年同月比	▼ 53,822	▼ 52,196,881	△ 80
数量TOP10			
韓国	40,270	58,010,906	1,441
サウジアラビア	27,905	35,648,390	1,277
イラン	21,184	27,182,567	1,283
タイ	21,074	28,045,057	1,331
アラブ首長国連邦	20,813	25,616,692	1,231
カタール	12,494	16,279,307	1,303
台湾	9,631	13,229,680	1,374
インド	9,011	12,190,477	1,353
クウェート	7,945	10,002,326	1,259
マレーシア	7,261	9,703,478	1,336

参考

輸入先	2011年2月		CIF JAPAN
	数量 (MT)	単価 (円/kg)	単価 (ドル/MT)
合計	4,992	123	1,491
TOP3			
タイ	3,549	114	1,388
米国	413	130	1,578
ブラジル	373	174	2,117
スポット市況 (ドル/MT)	12月	1月	2月
CFR CHINA	1,259~1,281	1,299~1,308	1,309~1,321

(出所:中国海関総署)

「2月のLLDPE輸入単価、安値トップ10」

LLDPEの輸入はモノマーである α -オレフィンにより、税番3901.10-020と税番3901.90-010のどちらかでの申告となり、関税率が異なる。2011年2月のLLDPE輸入実績は次のとおり。前者の輸入数量は前月比371トン増の769トン、輸入価額は9797万3000円となった。一方後者の輸入数量は同2394トン減の1万8763トン、輸入価額は26億888万9000円となった。価額を数量で割り返した2月の輸入単価(CIF JAPAN)の計算値は、前者が前月比8円安の127円/kg、後者が同7円安の139円/kg。貿易統計上のLLDPE統計値は、汎用品と付加価値品との区別は出来ないが、税関別や国別に分けることで汎用品の輸入単価が概ね予想可能となる。貿易統計値およびそれを基に算出した単価の安値トップ10は、下表のとおり。なお、2月の通関レートは、1ドル=81.76~83.42円、日数による加重平均値は、1ドル=82.33円。

税関	国名	2011年2月			CIF JAPAN	
		数量 (kg)	価額 (1000円)	(円/kg)	単価 (ドル/MT)	
門司	カナダ	44,000	4,616	105	1,258	1,283
大阪	タイ	135,000	16,089	119	1,429	1,458
東京	タイ	147,000	17,810	121	1,452	1,482
神戸	タイ	32,000	3,924	123	1,470	1,500
東京	サウジアラビア	49,500	6,088	123	1,474	1,504
苫小牧	イラン	16,250	2,005	123	1,479	1,509
神戸	台湾	12,000	1,511	126	1,509	1,540
名古屋	韓国	28,000	3,558	127	1,523	1,554
四日市	マレーシア	172,900	23,337	135	1,618	1,651
仙台塩釜	タイ	22,000	2,999	136	1,634	1,667

(出所:財務省)

Weekly Market Report

「2月の中国 LLDPE 国別輸入数量トップ 10」

輸入先	2011年2月		CIF CHINA
	数量	価額	単価
	(MT)	(ドル)	(ドル/MT)
合計	174,732	250,087,176	1,431
前月比	▼ 38,598	▼ 52,838,686	△ 11
前年同月比	▼ 2,965	△ 13,378,146	△ 99
数量TOP10			
サウジアラビア	33,981	43,766,742	1,288
タイ	29,540	43,757,700	1,481
シンガポール	24,509	36,235,046	1,478
韓国	15,847	23,473,003	1,481
米国	13,501	22,321,006	1,653
アラブ首長国連邦	10,355	12,098,494	1,168
クウェート	8,217	10,868,204	1,323
台湾	6,601	9,386,280	1,422
イラン	6,548	9,902,360	1,512
カタール	5,226	7,228,516	1,383

参考

輸入先	2011年2月		CIF JAPAN
	数量	単価	単価
	(MT)	(円/kg)	(ドル/MT)
合計	19,532	139	1,683
TOP3			
タイ	4,417	118	1,431
韓国	3,873	136	1,649
サウジアラビア	3,377	109	1,326
スポット市況 (ドル/MT)	12月	1月	2月
CFR CHINA	1,354~1,372	1,392~1,401	1,399~1,406

(出所: 中国海関総署)

「2月の韓国ナフサおよびオレフィン輸出」

韓国の2011年2月のナフサおよびオレフィン輸出統計は以下の通り。

	数量 (mt)	価額 (US\$)	FOB KOREA (US /mt)	国別輸出量 TOP3		
				国	数量(mt) FOB KOREA	
ナフサ	318,672	277,904,362	872	日本	198,993	868
前月比	△50,261	△44,770,281	△3	中国	119,679	879
前年同月比	△79,041	△106,843,236	△158	—	—	—
エチレン	42,504	53,335,277	1,255	中国	39,465	1,253
前月比	▼11,893	▼11,826,272	△57	台湾	2,901	1,213
前年同月比	△15,177	△17,635,909	▼52	フィリピン	128	2,811
プロピレン	39,951	53,414,074	1,337	中国	36,905	1,333
前月比	▼16,575	▼18,402,218	△66	台湾	1,546	1,446
前年同月比	▼1,517	△4,412,843	△155	日本	1,499	1,330
ブタジエン	24,708	52,106,194	2,109	米国	10,105	2,192
前月比	△5,433	△12,925,299	△76	台湾	6,047	2,151
前年同月比	△6,206	△18,879,092	△313	中国	6,045	1,940

(出所: 韓国貿易協会)

「2月の韓国中間原料①輸出」

韓国の2011年2月のEG、フェノール、PTAなどの中間原料輸出統計は以下の通り。

	数量 (mt)	価額 (US\$)	FOB K REA (US\$/mt)	国別輸出量 TOP3		
				国	数量(mt) FOB KOREA	
エチレングリコール	33,071	39,989,434	1,209	中国	33,062	1,209
前月比	△8,935	△13,810,795	△125	ウズベキスタン	5	1,353
前年同月比	△3,901	△11,171,823	△221	パキスタン	3	2,672
フェノール	13,622	21,330,824	1,566	中国	8,028	1,667
前月比	▼6,784	▼9,854,971	△38	タイ	3,500	1,386
前年同月比	△443	△4,489,020	△288	日本	1,902	1,439
ビスフェノール A	14,004	31,877,253	2,276	中国	8,609	2,302
前月比	▼2,371	▼3,553,069	△113	サウジアラビア	1,684	2,280
前年同月比	△4,225	△16,361,861	△690	インド	720	2,274
PTA	277,456	402,596,774	1,451	中国	212,426	1,443
前月比	▼28,786	△18,184,918	△196	インド	35,046	1,483
前年同月比	▼13,106	△135,436,568	△532	アラブ首長国連邦	8,096	1,562
DMT	1,755	2,520,686	1,436	日本	945	1,369
前月比	▼47	△159,225	△126	中国	378	1,511
前年同月比	△179	△868,238	△388	インド	180	1,533
AN	13,817	31,322,852	2,267	中国	8,778	2,244
前月比	△2,031	△5,908,356	△111	タイ	2,425	2,389
前年同月比	△6,379	△17,544,900	△415	インドネシア	1,601	2,175
TDI	18,333	43,428,875	2,369	シンガポール	2,200	2,188
前月比	▼1,740	▼4,497,288	▼19	香港	1,920	2,345
前年同月比	▼3,829	▼17,392,222	▼376	台湾	1,640	2,150
MDI	4,794	10,909,261	2,275	中国	2,300	2,327
前月比	△7	△306,517	△61	台湾	880	2,238
前年同月比	△1,148	△4,280,171	△457	ベトナム	473	2,195

(出所: 韓国貿易協会)

Weekly Market Report

「2月の韓国アロマティクスおよびスチレンモノマー輸出」

韓国の2011年2月のアロマティクスおよびスチレンモノマー輸出統計は以下の通り。

	数量 (mt)	価額 (US\$)	FOB KOREA (US\$/mt)	国別輸出量 TOP3	
				国	数量(mt) FOB KOREA
ベンゼン	111,546	119,123,401	1,068	米国	69,523 1,085
前月比	▼4,347	△1,397,404	△52	スペイン	14,892 1,027
前年同月比	▼16,137	▼5,312,827	△93	オランダ	8,861 1,127
トルエン	78,748	75,329,781	957	中国	50,446 952
前月比	▼1,347	△879,634	△27	台湾	6,915 959
前年同月比	△13,548	△19,314,666	△97	インド	6,631 966
オルソキシレン	4,901	6,240,827	1,273	中国	4,901 1,273
前月比	▼5,550	▼6,304,084	△73	—	—
前年同月比	▼5,747	▼5,477,129	△173	—	—
混合キシレン	54,488	54,640,988	1,003	中国	31,067 1,005
前月比	▼13,714	▼12,404,692	△20	タイ	6,949 1,007
前年同月比	▼5,541	△3,213,379	△146	台湾	5,085 1,008
パラキシレン	100,286	156,582,936	1,561	中国	54,217 1,555
前月比	△10,162	△29,532,815	△152	台湾	46,070 1,569
前年同月比	△10,190	△61,930,735	△511	—	—
スチレンモノマー	120,393	164,317,522	1,365	中国	104,310 1,364
前月比	△24,507	△39,386,641	△62	香港	7,050 1,357
前年同月比	△15,150	△30,949,008	△98	台湾	4,952 1,370

(出所:韓国貿易協会)

「NAP MOF PRICE AVE+2000」INDEX = ナフサ輸入価格単純平均+ ¥2000/KL

(単位:円/KL)

期間(3ヶ月)	輸入価格単純平均 + ¥2000/KL	Amerex 占有率	期間(6ヶ月)	輸入価格単純平均 + ¥2000/KL	Amerex 占有率
10 Oct - 10 Dec	45,200	0%	10 Jul - 10 Dec	43,900	0%
10 Nov - 11 Jan	48,000	0%	10 Aug - 11 Jan	45,100	0%
10 Dec - 11 Feb	50,700	0%	10 Sep - 11 Feb	46,800	0%
11 Jan - 11 Mar	52,500	33%	10 Oct - 11 Mar	48,900	17%
11 Feb - 11 Apr	54,900	67%	10 Nov - 11 Apr	51,500	33%
11 Mar - 11 May	58,600	100%	10 Dec - 11 May	54,700	50%
11 Apr - 11 Jun	62,100	100%	11 Jan - 11 Jun	57,300	67%
11 May - 11 Jul	64,200	100%	11 Feb - 11 Jul	59,500	83%
11 Jun - 11 Aug	64,500	100%	11 Mar - 11 Aug	61,600	100%
11 Jul - 11 Sep	64,400	100%	11 Apr - 11 Sep	63,300	100%
11 Aug - 11 Oct	64,300	100%	11 May - 11 Oct	64,200	100%
11 Sep - 11 Nov	64,200	100%	11 Jun - 11 Nov	64,300	100%
11 Oct - 11 Dec	64,200	100%	11 Jul - 11 Dec	64,300	100%
11 Nov - 12 Jan	64,100	100%	11 Aug - 12 Jan	64,200	100%
11 Dec - 12 Feb	64,100	100%	11 Sep - 12 Feb	64,100	100%
12 Jan - 12 Mar	64,000	100%	11 Oct - 12 Mar	64,100	100%

算出には8日18時時点のナフサMOF評価値及び予想値を使用。Amerex占有率は上記算出におけるAmerexのナフサMOF評価値及び予想値の使用率を示す。

「2月のエチレン用輸入ナフサ価格、前月比840円高 = 経済産業省」

経済産業省製造産業局化学課は4日、2月のエチレン用輸入ナフサ通関実績を発表した。同統計によると、2月のエチレン用輸入ナフサ価格は1KLあたり5万0140円と前月から840円上昇した。5ヶ月連続の上昇。輸入数量は前月比14万8405KL減(6.7%減)の206万1384KL。

	輸入数量(KL)	輸入数量(トン)	輸入金額(ドル)	単価(ドル/トン)	為替レート(円/ドル)	単価(円/KL)
1月実績	2,209,789	1,533,498	1,313,929,809	856.8	82.9	49,300
2月実績	2,061,384	1,429,212	1,255,357,146	878.4	82.3	50,140

(出所:経済産業省)

「2月のエチレン生産、前年同月比2.1%増 = 経済産業省」

経済産業省製造産業局化学課は6日、2月のエチレン生産速報を発表した。同統計によると、2月のエチレン生産量は60万5300トンと前月から6.4%減少した。ただし、前年同月を2.1%上回っている。なお、2月に定期修理のため停止したエチレンプラントはなし、前年同月の定修は1プラント。

「3月のエチレン生産、前月比15.0%減 = 経済産業省」

経済産業省製造産業局化学課は7日、3月のエチレン生産速報を発表した。同統計によると、3月のエチレン生産量は51万4800トンと前月から15.0%減少した。ただし、前年同月を0.1%上回っている。なお、3月に定期修理のため停止したエチレンプラント1プラント、前年同月の定修は3プラント。

Weekly Market Report

「ベンゼン 4 月 ACP、1150 ドル = JX 日鉱日石エネルギー」

JX 日鉱日石エネルギーは 1 日、大手需要家との交渉の結果、ベンゼンの 4 月契約価格 (ACP, Asian Contract Price) を前月比 40 ドル安の 1150 ドル/MT で決定した。国内価格換算想定値は 101.5 円/kg。誘導品装置のトラブル停止や定修による需要減を受け米国市場が下落し、アジアのベンゼンスポット価格も米国に連れて下落したことが背景。

(単位:ドル/トン)

Apr-10	May-10	Jun-10	Jul-10	Aug-10	Sep-10	Oct-10	Nov-10	Dec-10	Jan-11	Feb-11	Mar-11	Apr-11
980	995	845	790	830	850	870	950	930	1,030	1,130	1,190	1,150

(出所: JX 日鉱日石エネルギー)

「プラスチック原料の特恵関税率が 2 倍へ」

特恵関税制度の延長及び見直し、暫定税率等の適用期限の延長等および個別品目の関税率の改正、貿易円滑化のための税関手続の改善、税関における水際取締りの充実・強化等を内容とする関税定率法等の一部を改正する法律案が、3 月 31 日に参議院本会議で可決され成立した。4 月 1 日からの改正に伴うプラスチック原料 (従来の項番号 13) の特恵関税については、鉱工業産品に設定している年間の特恵適用の限度枠 (シーリング) を廃止し、適用する特恵税率を定める。現行シーリング管理の項番号 13 であるポリエチレン (PE)、ポリプロピレン (PP)、ポリスチレン (PS) 等の塊、粉、粒、フレーク等の特恵税率は一般の税率 (MFN 税率) の 40% となり、以下の通り前年度の 2 倍となった。なお、前年度でのシーリングを超えたことによる特恵関税の適用が停止したのはタイ (10 月 16 日) および中国 (3 月 16 日) であった。また、4 月 1 日よりプラスチック原料などの項番号が 13 から 9 へ改正された。

LDPE, LLDPE, HDPE	-	2.6% または 8.96 円/kg のうちのいずれか低い税率
LLDPE (コポリマー)	-	1.12%
PP (ホモ)	-	2.6% または 10.24 円/kg のうちのいずれか低い税率
PP (コポリマー)	-	1.12%
GPPS	-	2.6%
HIPS	-	1.24%
ABS	-	1.24%

「MEK 等の出荷を停止 = 丸善石油化学」

丸善石油化学は 31 日、震災により停止した装置のうち、装置の健全性の確認、その他諸準備が整ったことで、千葉の第 3 エチレン製造装置を再稼働することを明らかにした。稼働再開は 4 月 4 日を予定している。なお、ブタジエン製造装置の 1 系列および芳香族製造装置の一部についても、第 3 エチレン製造装置稼働後に順次稼働する予定。一方で同社は 1 日、メチルエチルケトン (MEK) 等の出荷を停止することを明らかにした。先般の地震により同社のアルコールケトン製造装置が被災しており、被災状況についての詳細な調査はこれからの予定だが、現時点の見込みとして復旧には最低でも 1 年間は必要であるという。それゆえ、やむを得ず復旧までの期間の当該製造装置の製品である MEK、セカンダリーブチルアルコール (SBA)、ジイソブチレン (DIB) の出荷を停止することを決定した。

「MAA プラント新設 = 三菱レイヨン」

三菱レイヨンは 1 日、グループ会社ルーサイト・インターナショナルが米テキサス州ボーモント工場においてメタクリル酸 (MAA) 設備を新設することを明らかにした。新設される MAA 設備の生産能力は 2 万 3000 トン/年で、2011 年 7 月に着工し 2012 年第 4 四半期の稼働を予定している。投資額は 3620 万ドル (約 31 億円)。新興国の経済成長を背景に、中国を中心とするアジアをはじめ、北米および南米でも MAA は逼迫した状態が続いており、今後も需要増加は続くことが予想されるため、これに対応すべく米国地域に MAA の供給拠点を建設することを決めた。

「1-ヘキセン製造プラントの営業運転を開始 = 三井化学」

三井化学は 4 日、市原工場内に新設した 1-ヘキセン製造プラントの営業運転を開始したことを明らかにした。中東の安価なエチレン系製品の大量流入による競争激化に備え、対抗策として 5 年以上前からエチレン系製品の高付加価値化を推進し、市原工場においてさらなる供給過剰懸念のあるエチレングリコール (EG) を生産する EOG プラントを 2009 年 7 月に停止し、75 億円を投じて 4 月 1 日の営業運転を目指してより高付加価値な 1-ヘキセン製造プラント (生産能力=3 万トン/年) を新設していた。1-ヘキセンは、HAO-LLDPE や高密度ポリエチレン (HDPE) の副原料として使用され、全世界で 65 万トン程度使用されており、年率 6-7% の成長が見込まれている。

「中国にパウダースラッシュ材料の生産販売会社を設立 = 日本ゼオン」

日本ゼオンは 4 日、子会社ゼオン化成が中国の江蘇省常熟市の東南経済開発区に瑞翁化成塑料 (常熟) 有限公司 (ZKC) を設立したことを明らかにした。2012 年 4 月に、塩化ビニル樹脂 (PVC) を原料とするパウダースラッシュ材料 (PSC) の生産開始を目指すという。ZKC は拡大する中国自動車市場に対応し、安全、安価な自動車内装用材料を現地で供給するために設立。第 1 期には 1000-2000 トン/年の規模で低温特性を改良した PVC パウダースラッシュ材料 (PVC/PSC) の生産を開始し、市場拡大に伴い第 2 期には 3000-4000 トン/年の生産規模の拡大していくことを計画している。

Weekly Market Report

「インドに SBR 製造販売会社を設立 = 丸紅」

丸紅は 5 日、インドでインド国営石油 (IOC) と台湾の合成ゴムメーカー TSRC と共同で、スチレンブタジエンゴム (SBR) の製造販売を行う合弁会社を設立することで合意し、合弁契約書を締結したことを明らかにした。IOC はインド国内に 8 ヶ所製油所を有し、石油化学事業の拡大を進めている。現在、ハリアナ州パニパットにてナフサクラッカーを建設しており、今春稼働予定で、このクラッカーから副産物として産出されるブタジエンが SBR の原料となる。TSRC とは中国およびタイですでに合弁事業を行っている。丸紅は、ブタジエンの有効利用を模索していた IOC と、インド進出を目論んでいた TSRC とを引き合わせ、IOC の最新鋭クラッカーから産出されるブタジエンを原料に、クラッカー隣接地に SBR プラントを建設し、台湾や中国で実績のある TSRC の技術で SBR を生産する。現在全量輸入されているインド国内の SBR 需要を満たすのが目的。出資比率は、IOC が 50%、TSRC が 30%、丸紅が 20% で、2012 年の稼働を予定。

「ブラスケムとブタジエン長期契約 = 丸紅」

丸紅は、ブラジル石油化学大手ブラスケムから合成ゴム原料となるブタジエンを長期調達することで合意した。調達金額は 5 年間で 450 億円。ブタジエンはタイヤ販売の拡大で需要拡大が見込まれるが、供給力の増強が遅れている。ブラスケムは安定した販売先を確保し、大型投資に踏みきる。ブラスケムは 3 億レアル以上を投資し、ブラジル南部のリオグランデスル州で 10 万トン/年規模のブタジエン工場の建設に着手、完成は 2012 年予定。ブタジエン生産能力は約 34% 増強される。丸紅は 2012 年からブタジエンを購入、中国やインドにある傘下のタイヤ原料工場に供給する。将来はブラスケムとともに、ブラジルでのタイヤ原料の生産も検討する。

「PP 製造装置、操業再開 = サンアロマー」

サンアロマーは 4 日、原料供給制約から操業を停止していた川崎工場の PP 製造設備について、原料供給再開に伴い 2 日までに操業を再開した。また、計画停止していた大分工場の製造設備 1 系列も予定通り操業を再開。添加剤等の副資材の一部は依然調達が困難であり、今後生産に支障をきたす事態が予想される製品については、当該副資材の同等品を使用しての生産継続を検討している。

「スイスの Acomon 社を買収 = 三井化学」

三井化学は 7 日、プラスチックメガネレンズモノマーの製造販売を行っているスイスの Acomon について、同社の株主であるドイツの Auctus Capital Partners 系ファンド等および Acomon の経営陣との間で、3 月 31 日に株式譲渡契約を締結し、三井化学の 100% 子会社となることを明らかにした。株式の譲り受けは 4 月 6 日に完了している。子会社化することで、従来の製品ポートフォリオに Acomon の製品を加えることによる品揃えの充実化や、Acomon の保有する全世界での販売ネットワーク活用によるプラスチックメガネレンズモノマー事業のグローバル運営体制強化といった効果が見込まれる。

「太陽電池用フッ素フィルム 3 倍増設、2012 年 4000 トン生産規模確保 = SKC」

韓国化学大手 SKC は 31 日、太陽電池用フッ素フィルムの生産能力を現在の 1200 トン/年から 2012 年 3Q までに 4000 トン/年増強することを明らかにした。この増強により、2012 年には世界市場の 30% シェア獲得を目標とする。耐候性と耐久性を必要とする太陽電池用フッ素フィルムは、脆い太陽電池セルを保護する役割がある。市場規模は年間ベースで 6000 トン、米化学大手のデュポン製品が独占しており、韓国では唯一 SKC がフッ素フィルムを生産する。同社は今後、供給不足が予想される同市場において投資を拡大する。

「アラバマに樹脂生産法人を設立 = 湖南石油化学」

韓国石油化学大手湖南石油化学は 1 日、米アラバマ州アーバン市に複合樹脂を生産する HPM アラバマコーポレーションを設立したことを明らかにした。同プラントは、南部地域のテクノパークに、今年 12 月の商業生産を目標に建設中であり、段階的に増設して、2013 年までに複合樹脂と LFT (LONG FIBER THERMOPLASTIC) の生産能力を 1 万 5000 トン/年に拡大する計画がある。機能性素材特許製品 LFT は、金属代替となる軽量化素材で、自動車ドアモジュールプレート、洗濯機アウタータブなど適合する。また、LFT 追加増設、EPP (Expanded Polypropylene)、接着性樹脂など機能性素材事業の拡大も予定されている。同社は米国で初めての樹脂生産事業を足掛かりにコスト競争力を駆使し、北米だけでなく中米、南米向けへの製品供給体制の確立を狙う。

「ローディアを買収へ = ソルベイ」

ベルギー化学大手ソルベイは 4 日、仏特殊化学大手のローディアの株式を買収する枠組みについて合意したことを明らかにした。同社はローディアの企業価値を 66 億ユーロとみており、ローディア株を 1 株当たり 31.60 ユーロで買収することを提案。ローディアの取締役会は、全会一致で提案の受け入れを推奨している。株式の取得額は 34 億ユーロ、8 月末には買収が完了する予定。今回の買収による収益の増加分は初年度から業績に反映され、新会社の売上高は計 120 億ユーロになる見通しである。ローディアは幅広く新興国市場で事業を展開していたため、売上高の 40% を新興国市場が占めることになる。

「インドのイオン交換樹脂工場の稼働 = ランクセス」

独化学大手ランクセスは、約 6000 万ユーロを投じてインドのグジャラート州ジャガディア化学団地に建設した新規イオン交換樹脂プラントが、本格的な稼働に入ったことを明らかにした。3 万 5000 トン/年のプラントは昨年 12 月に完成、合計 6 つの生産ラインのうち 5 ラインが稼働しており、完成品の出荷準備中である。アジアで最先端の設備を備えたプラントが生産する水処理化学製品は、半導体、製薬、食品、発電などの産業向けに供給される。